

平成 27 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会

議事概要

1 開催日時および開催場所

日 時： 平成 28 年 1 月 18 日（月） 14:00～17:00
場 所： 釧路地方合同庁舎 5 階第一会議室

2 出席者一覧（敬称略）

<検討委員>

| | |
|-------|---------------------------|
| 河口 洋一 | 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授 |
| 黒澤 信道 | 北海道ひがし農業共済組合 総務部長 |
| 小菅 正夫 | 北海道大学 客員教授 |
| 齊藤 慶輔 | 株式会社猛禽類医学研究所 代表 |
| 白木 彩子 | 東京農業大学生物産業学部 准教授 |
| 中川 元 | 斜里町立知床博物館 元館長 |
| 藤巻 裕蔵 | 帯広畜産大学 名誉教授 |

<関係機関>

北海道森林管理局計画課、知床森林生態系センター、十勝西部森林管理署、胆振東部森林管理署、網走南部森林管理署（欠席）、根釧東部森林管理署、北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道環境生活部環境局エゾシカ対策課、北海道環境生活部環境局生物多様性保全課、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、公益財団法人知床財団、公益財団法人日本野鳥の会

<事務局>

北海道地方環境事務所、釧路自然環境事務所、釧路湿原自然保護官事務所、ウトロ自然保護官事務所

3 会議の概要

（1）専門家からの発表

専門家より以下の発表が行われた。

◎中川委員

- ・環境省の請負業務である、平成 26 年度のオジロワシ・オオワシ個体数等調査の解析について発表。
- ・平成 27 年度の解析内容は、メッシュ図による越冬動態分析、メッシュ単位・調査区単位の個体数動態整理及び要因分析、長期的な動態の解析である。
- ・平成 23 年度の調査と比べて両種ともほぼは同じ数のメッシュにて確認されており、オオワシでは 100～120 メッシュと集中傾向がみられ、オジロワシでは 140 から 160 のメッシュで確認されており、分散傾向がみられている。
- ・ブロック別の推移ではオオワシは越冬期間中のブロック間の移動がみられるが、オジロワシは 2 月を除いて各ブロックにおける個体数に変化はさほどない。2 月はオオワシ、オジロワシともに根室ブロックに移動する傾向がみられる。
- ・サケは自然の魚の中でも餌として大きな割合を占めており、越冬初期のサケの確保がオジロワシ・オ

オワシの保全上は重要と考える。

- ・オオワシは 1980 年代後半以降 2004 年の 2000 羽以上をピークとして減少傾向にあるが去年は少し回復を見せた。越冬地の状況やロシアにおける生息地の状況に左右されることもある。
- ・オジロワシは 1980 年後半をピークとして一度落ちるが、徐々に増加し、1,000 羽弱を推移している。

◎白木委員

- ・北海道で繁殖しているオジロワシの動態と、その動態に影響する外部要因を明らかにする取組みについて発表。
- ・北海道の繁殖個体群の定義を明確にするための遺伝解析研究を実施。
- ・オジロワシの極東個体群の遺伝構造の解明を目的とし、北海道およびロシア極東の地域繁殖集団の遺伝解析を行い、集団間の遺伝的関係を研究。
- ・さらに、遺伝子型判定により越冬個体、とくに風車衝突個体の繁殖地域を推定することも研究している。

◎齊藤委員

- ・オジロワシを対象として、道北と道東で繁殖する個体群の分散の状況及びリスクについて発表。
- ・様々なリスク（線路、道路、送電線、風車、鉛中毒）の地点を重ねていくことでアボイドマップとして危険箇所を事前に認識し、保全対策をしていくべきである。
- ・個体の行動をち密に解析することで、季節ごとに起きる事故を事前に察知し、対策するということができるので、今後長期の追跡調査として行うことは非常に意義がある。

◎河口委員

- ・NEDO 事業にて得たイギリスにおける風力発電事業の環境影響評価、衝突確率とその課題について発表。
- ・衝突確率モデルの精度を上げるには、風況と鳥類の行動の解明が必要不可欠である。

(2) 関係行政からの発表

関係行政機関より以下の発表を行った。

◎北海道森林管理局

- ・平成 27 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の実施報告。
- ・希少野生動物種の保護管理事業として野付半島保護林でオジロワシの生息箇所の巡視を実施。
- ・希少野生生物の補足調査として東大雪支署管内でオジロワシのつがい調査を実施したが、幼鳥が確認されなかったことより、今年度の繁殖は失敗したものと推測。
- ・昨年度より知床森林生態系保全センターにおいて、営巣地周辺におけるエゾシカの捕獲事業の実施について、研究者等と検討・調整を実施。
- ・オジロワシ長期モニタリング調査グループ会議にオブザーバーで参加。

◎北海道開発局

- ・平成 27 年度調査実施状況と平成 28 年度の実施計画について発表。
- ・オジロワシ・オオワシが関係する 8 の開発建設部（札幌、旭川、室蘭、釧路、帯広、網走、留萌、稚内）にて、道路、河川、農業等の合計 24 地区の事業を進めるにあたり、オジロワシ又はオオワシの調査を実施。
- ・平成 28 年度は、今年度実施地区の継続調査実施を含め、合計 26 地区の調査を実施予定。

<意見等>

- ・専門家の助言を受けて適切な保全対策を講じることあるが、環境省としてもどのような対策がとられているのかの事例を取りまとめていただきたい。
- ・開発局が実施している技術発表会の保全対策実例を参考にする場合はホームページに論文として掲載されているもので内容を確認できる。

◎釧路自然環境事務所

- ・釧路湿原野生生物保護センターにおける傷病個体収容と野生復帰状況について発表。
- ・昨年度分は今年度 4 月に報道発表を実施。今年度分についても今年 4 月に発表を行う予定。
- ・今年度（1月 18 日現在）は、オジロワシ生体 7 羽、死体 7 羽、オオワシ生体 2 羽を収容。オジロワシ 1 羽、オオワシ 3 羽を放鳥。
- ・終生飼育個体のオジロワシ 1 羽を鹿児島県の動物園に譲渡。

<意見等>

- ・行政としては生体収容よりも収容原因究明に力を入れ、体制を整えていただきたい。
→釧路湿原野生生物保護センターとしての必要な機能を整理し、いただいた意見も踏まえ、生体飼育に係る予算も含めて考えていく。（環境省）

◎北海道庁

- ・北海道庁における鉛弾に係る普及啓発について発表。
- ・パネル展等での鉛弾規制の周知、狩猟パトロール、コンビニでの店内放送及び駅前ビジョン等での普及啓発を実施。

<意見等>

- ・警察との連携を行い、情報収集につとめ何が（鉛弾規制の）弊害になっているのかということを探っていただきたい。
- ・普及啓発も重要だが、条例で決まった限り、警察の管轄でもあるということを確認し、行動していただきたい。

◎北海道地方環境事務所

- ・オジロワシ・オオワシ生息域における風力発電施設の影響について発表。

- ・環境省としては、自然再生エネルギーを推進する立場でもあるため、風力発電自体を否定するのではなく、猛禽類等との共存を図っていききたい。
- ・様々なモデル事業、戦略的適地構築事業及び情報整理等を実施。
- ・風力発電の政策線引きの活用と、野生生物への影響の両立等、専門家の意見を伺いながら進めたい。

<意見等>

- ・環境省の委託事業で実施しているワシの行動観察についての報告書の概要についても報告いただきたい。

◎釧路自然環境事務所

1) 知床世界自然遺産地域における長期モニタリング項目について

- ・知床世界自然遺産地域におけるモニタリング項目のオジロワシ・オオワシに関連する項目について評価原案を環境省が作成し意見を伺った。

2) オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の実施報告（一部平成26年度含む）。

- ・今年度の釧路湿原野生生物保護センターにおける傷病個体の収容・治療・リハビリ等について報告。
- ・羅臼海域における観光船からの海ワシ類への餌付け対策について、ルール案を海ワシの餌付け適正化会議で提案予定。

3) 今後のオジロワシ・オオワシ保護増殖事業について（案）

- ・平成30年度までに保護増殖事業の具体的な目標について検討を進め、目標達成に向けた実現可能な計画を策定したい。
- ・その後5カ年計画（平成31年度から平成35年度）で、策定された計画をもとに短中期目標及び計画を策定し、事業を実施。
- ・現況把握調査に関してはいろいろな方々と協力し、効果的・効率的にやっていきたい。

<意見等>

- ・自然餌資源を増やすため、サケマス増殖事業関係者、水産研究所、河川研究者等の方々も含め、餌資源に関して実施可能な方策を考える場を設けるべき。
- ・オジロワシの繁殖環境だけでなく、オオワシの越冬環境についても保全するべき。
- ・生息地として重要な河川環境の改善については、他の関係行政等も含めて、具体的な話を進めるべき。

(3) 全体的な意見交換

- ・来年度以降、円山動物園におけるオオワシプログラムを進めていく予定。相談等ご協力いただきたい。

(以上)